# 三重刺網の性能試験

1957年12月10日～11日まで
〃　12月16日～17日まで　2回

## 一 目　的

普通三重刺網と改良三重刺網の比較及び浮子と沈子の比重，潮流に対する網の定置具合等を調査せんとするものである。

## 二 調査場所

泊港々外（別図参照）

## 三 使用船

試験船かもめ丸（6屯22　15HP）臨時雇舟1隻使用する。

## 四 調査の結果

第1回目1957年12月10日午后5時泊港出港，オネベ崎北東地点午后5時半到達，早速投網を開始，翌朝11日午前5時揚網した。其の時の天候は晴，北東の風3～4M位，雲量4の巻積雲，水温投網時23度C，揚網時22.9度Cを示し海水透明度は全く零だつた。

底質小石混りの小珊瑚質使用漁具（網）は普通型三重刺網5反，改良型6反であつた。（1反の長さ16尋，高さ6尺）

| 月日 | 使用網 | 数量 | 漁獲 | 天候 | 風向 | 風速 | 水温 | 海水の透明度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 12月10～11日 | 普通三重刺網 | 5(反) | なし | 10 | NE | 3～4M | 23℃ | 0 | 水温は投網時 |
| 〃 | 改良三重刺網 | 5(反) | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 22.9℃ | 0 | 水温は揚網時 |

第2回目　1957年12月16日午后4時泊港を出発しオネベ崎東方地点午后4時30分到達，早速投網開始，翌朝午前5時揚網した。

其の時の天候東寄りの風3～4m，晴，雲量7の積雲，高層雲，水温投網時（16日午后4時30分）23度C，揚網時（17日午前7時）23度Cを示し海水透明度は前回より良く10m位であつた。底質砂地に岩が散在後半は泥質であつた。使用漁網，普通型，三重刺網5反，改良型5反で交互に使用して見た。

| 月　日 | 使用網 | 数量 | 漁獲 | 天候 | 風向 | 風速 | 水温 | 海水透明度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 12月16～17日 | 普通刺網 | 5反 | なし | | E | 3～4M | 22℃ | 10m | 水温投網時 |
| 16～17日 | 改良刺網 | 5反 | なし | 6 | E | 3～4M | 23℃ | 10m | 水温は揚網 |

（但しオジサン外5点（1所位）標本となす）

所　見

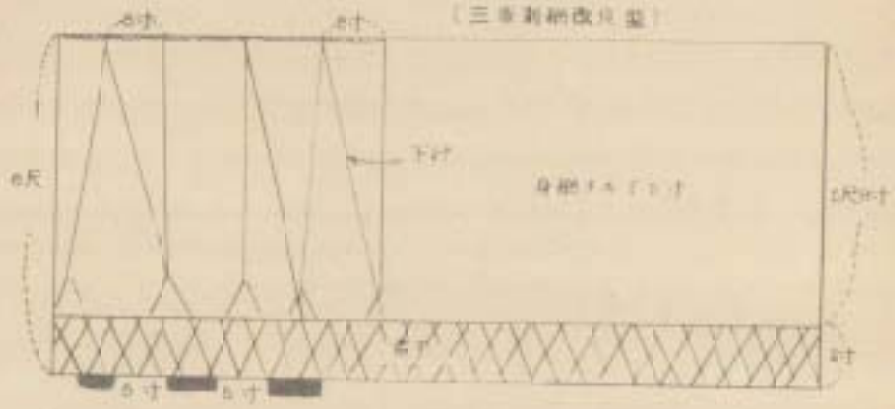
第一回試験当時は水温，海水，透明度，天候等から見た場合三重刺網にとつては好条件を具備しているものと思われるが，今回（試験）はあくまでも網の性能試験に重点を置いたため，此の海水，透明度の等は全く痛手であつた。
底質の見極めが困難だつたため海図に依り投網した。而し海底は小石混りの小珊瑚地帯にして且つ大潮時の影響に依る干満の差甚しく，そのため夜間干潮時に網全体が倒れ小石や小珊瑚石等に網がからまり満潮になつても網は元の位置な復せず，そのため漁獲全々駄目であつた。
浮子と沈子の比重はその落下速度からして別に良く考えられるが底質が小石混りの小珊瑚地帯のため潮流に対する網の定置状況を確める事は出来なかつた。

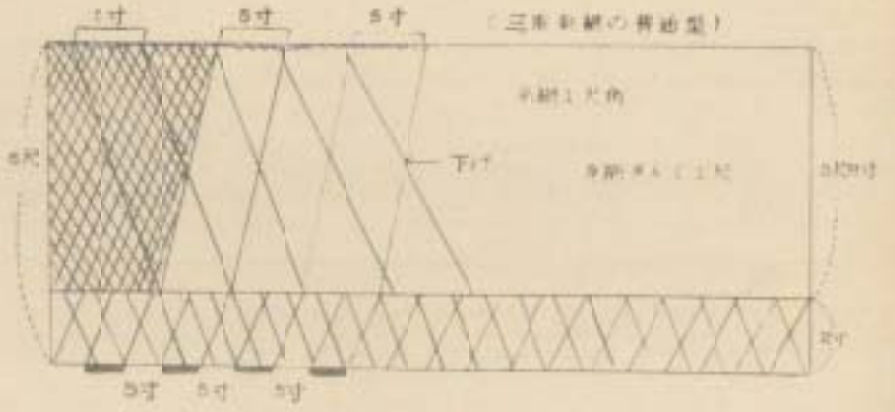
第二回試験当時は水温，海水，透明度，天候等前回より稍々良好であつた。此の度は網を１枚減らし１０枚とし且つ早目に投網した海水透明度１０m位のため余い底質を知るを得，早速午后４時３０分から投網を開始した。終了後水中目視を使用，実際に潜水に依る調査を開始したが網の張りは良好であつた。
投網時の深さ６尋半，投網終了時の深さ１１尋で後半６枚目から海底は急となつて下り泥質に変つていた。
浮子と沈子の比重は良好であるが普通三重網の場合，身網のタルミが多過ぎて沈子を覆いて海底に達する。個所多く底質が珊瑚礁又は岩等の場合はかなり多く操網時には相当の破損は免かれないと思われた。
改良三重網は申し分のない状態であつた。潮流を斜めに受けた当時の網の定置状況は稍々傾かに傾いている程度の最良の状態を示していた。

相　違　点

普　通　型　　外網目一尺巾として下げる

改　良　型　　外網目なし，唯上下に糸を重復させ下とす。タルミが改良型５寸に比し普通は１尺となつている。


（三条刺網改良型）
5寸
5寸
6尺
下ヶ寸
5寸
5寸
2寸


（三条刺網の構造型）
5寸
5寸
5寸
6尺
下ヶ寸
5寸
5寸
5寸
2寸

第1図　三重新網試験

昭1907年10月10日～11日
昭1907年12月16日～17日

琉球政府経済局長殿

水産庁研究一課
大　鶴　技　官

拝啓　其の後益々御清栄のことと拝察致します。

琉球滞在中はひとかたならぬ御高配をかたじけのう深く感謝しています。

調査結果の概要に成き，とりまとめましたので御送り致します。帰庁後はいろんな用件のため取りまとめに専念することもできず，充分なものではありませんが御検討下されば幸です。

尚，この報告書を発送するとき海水の塩分検定結果が到着しましたので同封いたします。

銘刈課長はじめ御一同様にもよろしく御伝え下さい。

敬　々